

「ある日突然…家族が認知症になった」を見て

昨日は七草粥であり、地域によっては松送り（どんと祭）も行われ、ほぼ正月気分も終わるよう。

そこで、いただいた賀状を整理していて、年一回の年賀状交換だけの方々の賀状の余白に、「お元気ですか?」、「お変わりありませんか?」の字句が今年はやけに目に着いた。

（メル友とは日頃からメール交流し、また、HPも覗いていただいているので自分の近況は知っていただけののだが…。）

こうして年一回でも我が身を気遣ってくれるのは有り難たいことだが、そう案じさせる歳なのかなあ〜と、つくづく思い知らされた感じ…。

そう感じている折、新年早々のTV番組としては珍しく、ドキュメンタリー「ある日突然…家族が認知症になった…密着365日!若年性アルツハイマーと闘う」が放映されることを知り、我が身の先々を知る参考になるかなと思ひ番組を見た。

「歳がいくと物忘れが多くなる」と云われているが、授業では黒板に漢字を書こうとしても思い出せず、「国語の時間でないから、漢字を間違ふよりはひらがなで書くよ。」と宣うことがしばしばだけに、既に我が身は高齢者のよう(-_-;)

番組で取り上げられていたアルツハイマーの一つの特徴ある症状としては、物事の段取り、手順ある行動（例えば、服を着る手順等）が出来難くなるということのようだが、段取りある行動はまだ出来るので、我が身は一安心(^_^;)

さて、知的障害児や自閉症児の中にも物事の段取りある活動が苦手な行動様式は見られる。

高齢者は「出来ていたことが出来なくなる」という背景、知的障害児や自閉症児は「出来ないことが出来るようになる」という背景の異なりはあるが、段取りある行動様式形成に取り組むという観点からは同じように思えるのだが…。

高齢者の場合、あまりにも「出来なくなる」というネガティブモードで見がちでないかなと思う。

昔から、「人は、歳行けば子どもに帰る」という言葉があるように、生物学的な人としての行動形式の仕組みはそう複雑なものでないような気がするだけに、障害児への取り組みからヒントが見えるものもあるような気がしてならないのだが…。

また、人は歳行けば心身機能が衰えるのは、生理学的にも自然の摂理とも思うのだが…。

それとも高齢者の行動様式に関しては、我はまだまだ不勉強ということか…。